

令和4年10月18日

担当：ビジネス実務学科 瀬戸就一

令和4年度 第12回FD・SD研修会

山形大学「IR履修証明プログラム」を終えて



本日は4月から9月までの山形大学履修証明プログラムを学修した報告が行われた。参加者は8名で私立短大の参加は本学だけである。講師陣は8名、既に卒業した特別聴講生が17名である。興味深い講義内容から3つを選択し、報告された。

1) BI ツール

このBIツールは企業内にある様々なデータを基に分析・可視化し、日常業務や経営そのものに役立つソフトウェアのことである。現在は、Power BI や Tableau (タブロー) といったソフトウェアがよく導入されている。Power BI の事例として山形大学のIR履修証明プログラム内の活動レポートより、学校基本調査のデータの可視化の例を確認した。また、北陸大学のIR情報として、アンケート調査をTableauで可視化しているホームページを確認した。どれも使いこなすと便利なツールである。

2) DSBC (Divergent stacked bar chart) グラフの作成

アンケート調査でリッカート(感情を段階で表現)尺度で設計すると、DSBCグラフで表現すると分かり易い。Google Formsと比較して、MS-Formsではリッカート尺度のアンケートを自動でDSBCグラフに変換してくれるので大変便利である。DSBCの具体例として、令和4年度入学時アンケート調査の結果をDSBCグラフで報告された。

3) 共分散比を用いた入試分析

今回、帯広畜産大学におけるIR活動の中から、入試科目の合計点の分散に占める個々の科目の分散比を求める方法が報告された。これにより、大学が重視する能力が実際の合否にどれくらい影響しているのかが分かる。今後は配点区分を調整し、大学が重視している学生が合格し、高い成績を獲得しているのか追跡調査を行う予定である。

各大学ではBIツールでの可視化が進んでおり、本学においても本格的な公表データの可視化について検討することが急務となったことを実感させられた。